

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 6月1日

【評価実施概要】

事業所番号	4771400035
法人名	有限会社 ほしくぼ
事業所名	グループホーム ほしくぼ
所在地	沖縄県国頭郡今帰仁村字湧川1578-3番地 (電 話) 0980-56-2690

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年 5月31日

【情報提供票より】(H20年2月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 8月 22日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	6 人 常勤 5 人, 非常勤 人, 常勤換算 4. 2人

(2) 建物概要

建物構造	コンクリートブロック造り
	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	15,000~ 円
敷 金	有 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 300 円 昼食 300 円 夕食 300 円 おやつ 100 円 または1日当たり 1, 000 円		

(4) 利用者の概要(5月 31日現在)

利用者人数	9名	男性 2 名	7名
要介護1	0 名	要介護2	5 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87 歳	最低 70 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今帰仁診療所 ・ いまじん歯科クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

本部半島を1周する道路、運天港入り口近くの高台に立地していて周囲は牧草畑やサトウキビ畑、また海の見える景観である。玄関近くに来ると石垣や庭の広さに落ち着き感が感じられる。庭では毎日のようにリハビリを兼ねて散歩や庭にあるテーブルベンチで野菜を干したり、お茶したりされている。ホーム内も飾り過ぎない雰囲気が良い。居室も窓が大きく明るく清潔感が感じられる。面会者が来て、居室でも庭でもくつろげる空間がある。入居者も職員もほとんどが今帰仁村の出身者で職員、入居者は開設以来の方が多く、馴染みの関係作りができています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目: 外部4) ①介護計画作成にあたって会議への家族参加は困難なようで面会の際の確認で行われている。②確実な申し送り、情報伝達は管理者、各勤務帯の職員から口頭及び日誌を通して伝えられている。③定期健康診断は協力医療機関(今帰仁診療所)の主治医及び看護師の定期往診と訪問看護、24時間体制での連絡、連携がなされている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 外部4) ①個別の記録と実践への反映→まだ不十分と認識はしているが、記録の充実、介護計画の一連の過程の充実には至っていない。チームが実践できる計画を立案し、職員個々がサービス提供を評価しながらステップアップすることを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 外部4, 5, 6) ①終末期ケアについて→協力医療機関、家族、村、区長、民生委員、地域包括支援センターの協力受託を得る。 ②避難訓練要請→区長より青年会への協力要請受託を得る。 ③今後も運営に関わる課題を会議の場で投げかけていく方針である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 外部7, 8) 手すりの必要な場所を指摘された際などは、速やかに対応されている。家族からの意見、苦情等の申し出は少なく、管理者及び職員はホームの質の向上のためには、要望等の申し出や意見箱への投函を促している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目: 外部3) 近隣の農家の方からは野菜の差し入れが多く、また保育園、幼稚園、学校児童の慰問交流がある。村主催の行事、祭り等にも参加し事前にも場所も確保していただいている。偶数月には運営推進会議が開催され、徐々にではあるが会議の充実が期待される。今後、ホーム主催で認知症ケアについて等、地域の方へ助言できる場を企画していただきたい。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症があっても、その人らしく。残存機能をいかして自立支援をモットーに入居者をはじめ、家族、地域の方々にスタッフ一同が関わっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を共有し、入居者を尊重したケアの統一を常に心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事等へは参加したり、またホームへ招いての交流を図っている。近隣の農家の方々からは野菜をいただいたりする際は、情報交換に努めている。職員の中には地域の婦人会長を勤めている方もいる。		特に近隣からの新鮮野菜の差し入れは多く、野菜には不自由しない。また保育園や学校児童の慰問等も充実して継続して交流を深めていって欲しい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を今後のよりよいグループホーム運営の構築ととらえており、調査員の評価のみならずホーム内に設置されている意見箱にも家族や見学者、ボランティア、地域の方々の投書を歓迎している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は偶数月の第3木曜日に設定。家族、村職員、地域包括支援センター、民生委員、区長らへ近況報告や問題等を投げかけている。	○	区長より青年会への協力要請の約束を得る等、一定の成果はあるが、会議録の充実(具体的な会議内容)が今後のサービスの質の向上につながることを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	村主催の敬老会や健康祭りの運営委員を務めている。		今後も連携の幅を上げれることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料金支払いの際、健康状態に変化のある際はその都度情報を提供、収集している。	○	さらにホームとの信頼関係が密になるような個々の文書や写真等によるお便り(お知らせ)が、利用料金請求書とともに送付されると理想的と思われる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関横に意見箱が設置されているが、意見要望が出てくるのは少ない。家族からの意見要望が出た際は、速やかに対応されている。	○	意見箱が活用されやすい工夫、ホーム側から家族意見要望を引き出していく、もう一步踏み込んだ関わり作りができと思われる。返信用封筒を同封してアンケートで意見を求め、今後の運営に反映すること等を検討していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設以来、職員の離職者は少なく、馴染みの関係作りがなされている。また職員は同じ村内、同じ地域出身の方が多く親近感をもって関わっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員へ資格取得のための支援、研修や勉強会、資料等の提供を推進している。資格取得で給与面にも反映している。		直接的介助の向上のみならず、記録の充実やカルテ、各ファイル作成の面でも育成できれば理想的である。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通して施設見学等を行っている。北部に立地していることもあり、他の同業者との交流は限られている。	○	中南部に行く機会がある際は、同業者のホームを訪問する企画を各自が意識していけたら、サービスの質はさらに向上すると思われる。相互訪問が充実して記録物等を閲覧できて勉強会もできたら理想的と思われる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の都合等ですぐに利用開始になるケースが多いが、本人、家族と話し合いを持って利用につなげている。不安のある利用者には馴染めるまで家族の面会をできる限り、毎日来てもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの行事や歌、料理、方言、体験談など職員の知らないことを教えていただきながら関わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の進行はあっても、要望等、意向をできる限り、尊重するよう心がけて関わっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人ができる事、できそうな事、やりたい事をミーティングで話し合い介護計画に立案するようにしている。	○	本人にとっての課題を捕らえるに当たって、家族が介護計画に対する関心を深めるような働きかけが望まれる。どのくらいなら歩けるのか・料理の準備ができるのか・配膳できるのか、本人は何を求めているのか等を探り続けていただきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な計画の見直しを行い、家族へ説明している。	○	見直しの際の家族参加が充実していけたら理想的である。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看取り支援が2ケース。		今後も看取りケースの経験をふまえ、さらなる看取りケースの支援の充実に期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医には24時間、診療依頼ができる体制をとっている。定期的に主治医に往診に来てもらっている。主治医から家族への説明してもらうよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、主治医と終末期のあり方について話し合いをもっている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳、プライバシーの確保を心がけて関わっている。入浴はひとりずつ、女性の日、男性の日に分けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調を考慮しながら、本人のニーズに沿った過ごし方を支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いのできる方には、役割を提供し生きがいづくりを支援している。食事は新鮮、旬の野菜を豊富に見た目にも工夫され、おいしい食事が提供されている。職員と共に食事をいただき、楽しい食事風景がある。		食材を上手く活用、美味しい料理作りへの姿勢がうかがえる。楽しく、おいしい食卓をぜひ今後も継続していただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回行われ、冬場は浴槽を使用している。入浴後には「気持ちがいい」と言ってもらえている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作りなどをしてきた方には、野菜作りの話や調理方法を教わったり、針仕事の上手な方には縫い物やボタン付けをお願いしたりしている。また囲碁の好きな方のために、囲碁相手をしていただけるボランティアを受け入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム敷地内、庭は自由に出られるようにしている。買出しは週2回、ミニドライブを週1回設定している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず自由に出入りができるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難、連絡マニュアルが掲示されている。特に夜間帯の避難方法を確認し合っているが、避難訓練の実施には至っていない。運営推進会議において青年会への協力依頼することが約束されている。	○	避難訓練の実施が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、水分量の確保、便秘対策がなされている。	○	定期的に体重測定ができる取り組み、定期的な血液検査で栄養値等の測定も取り組んでほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光には不快感がないよう配慮されている。食堂のテーブルや庭のテーブルには野菜をならべては話に花をさかせている。廊下には大きくプリントした写真が掲示されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は照明がいらないほど明るい、また窓の外の景色も緑豊で落ち着く。家具などの持ち込みは少ないが、本人の興味のあるものなどが飾られている。		